

白藍塾オリジナル

2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・経済学部

課題文は、「知識」と「情報」の違いを説明した文章。

課題文によれば、「知識」は知恵や情報に比べて複雑で理解しにくく、効用がわかりにくい。また、個人の内面の作業の産物であるため、市場原理になじまない。そのため、現代の市場社会においては、「知識」は、大衆の需要に応じて商品化しやすい「情報」に駆逐されつつある。筆者は、こうした状況に対して、「やむをえない」としつつも批判的な立場を取っている。

設問A・Bという出題形式は例年通りだが、今年度は、二つの設問がいずれも論述問題。知や教育にかかわるテーマという点では、2011年度・2012年度と共通している。

設問Aは、「大学教育の目的は、知識を授けることか」が問われている。だが、これに対して、たとえば「大学の目的は、知識ではなく情報を与えること」とは答えにくい。

ポイントはそこではなく、知識を「授ける」という表現だろう。その点を踏まえて、ノーの立場を取って、「大学の目的は、知識を一方向的に授ける（与える）ことではなく、学生が自分で知識を創り出すことができるようにすることだ」などのように論じるのが、最も鋭い答えとなるだろう。

もちろん、「大学はあくまで学生に知識を授ける啓蒙の場」という立場で書いても、一貫していれば、それはそれで評価されるはずだ。

設問Bは、「知識は人間だけによって創られていくのか」という問いに答える問題。漠然としていて、何とも意図のつかみにくい問題だ。

ただ、ふつうに考えれば、「人間」に對置されるのは「動物」なので、課題文における「知識」の定義を踏まえて、「動物の行動が一見知的に見えても、それは本能的なものにすぎない。情報を構造化して知識を創り出すことができるのは、言語を持つ人間だけだ」などのように論じるのが、最も正攻法だと考えられる。

もちろん、他の観点から問題を捉えることもできる。たとえば、課題文からはやや離れるが、「これからは、コンピュータによって知のあり方も変わっていくので、知識は人間とコンピュータとの共同作業によって創られていくようになる」などと論じることも可能だろう。どのような観点で論じるにせよ、しっかりとした根拠を示す必要がある。

設問A・Bのどちらも、論述の深さや独創性より、課題のねらいをいかに的確に捉えているかがポイントとなる。また、いずれも300字以内と字数が少ないので、基本型Aを使ってまとめるとよいだろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>